

資料1 ペガーボールについて

1. ペガーボールとは

ポンチョを着用したペガーマン（鬼役）を目がけて、クッション性のボールを投げてくっつける、鬼ごっこ（障がい者スポーツのひとつ）で、ペガーマン（鬼役）にボールを多くつけられたチームを勝ちとする。

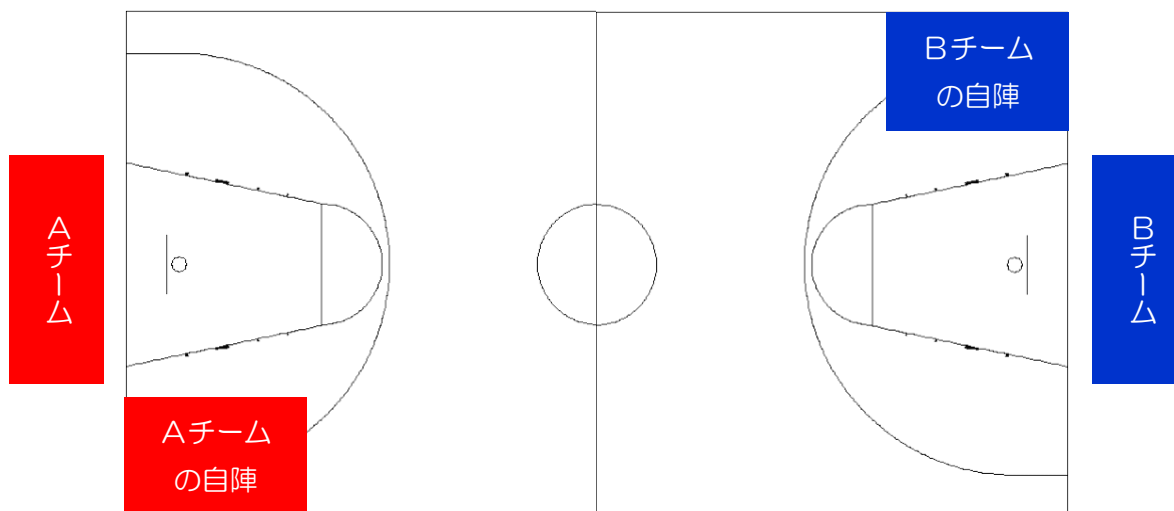
鬼を追いかけてボールを投げるという分かりやすいルールと、“人”対“人”だからこそ生まれる真剣勝負が、運動が苦手な子どもでもみんなと一緒に楽しめる。

2. 公式ルール

- 1) 5～12人の競技者からなる2チームで対決
- 2) 体育館のバスケットボールコート（オールコート）を使用する。
- 3) 1試合4分（前半1分・休憩・作戦2分・後半1分）とする。
※チーム数が増えるほど、見学時間も増える。
- 4) 先攻・後攻は各チームのリーダーがじゃんけんを行い決定
- 5) スタート時は攻撃チームとペガーマン（鬼役）はそれぞれ自陣のボックスに入る。
- 6) 先攻チームはボールを1人2個保有した状態でスタートをし、ペガーマンを追いかけてながらポンチョにボールを投げ、接着させる。
※バスケットボールコートの場所や学年によって接着点数を変える等も可能
- 7) 後攻チームはペガーマン1名を選出し、ボールをポンチョに接着されないように逃げる。
- 8) 先攻チームのターン終了後、インターバルを挟み、後攻チームのターンを行う。
- 9) 上記のルールに縛られず、人数やチーム数に応じて自由なルールに変更してください。

例）ボールの色によって接着点数を変える、複数の学年がある場合は学年で点数を変える等

【イメージ図】



1. リーグ戦（5チーム）の場合 合計10試合

	Aチーム	Bチーム	Cチーム	Dチーム	Eチーム
Aチーム		1	6	10	3
Bチーム	1		4	9	7
Cチーム	6	4		2	8
Dチーム	10	9	2		5
Eチーム	3	7	8	5	

1チーム×5～12人の場合 25～60人実施可能

1試合×4分（1分－休憩・作戦2分－1分）合計40分～60分

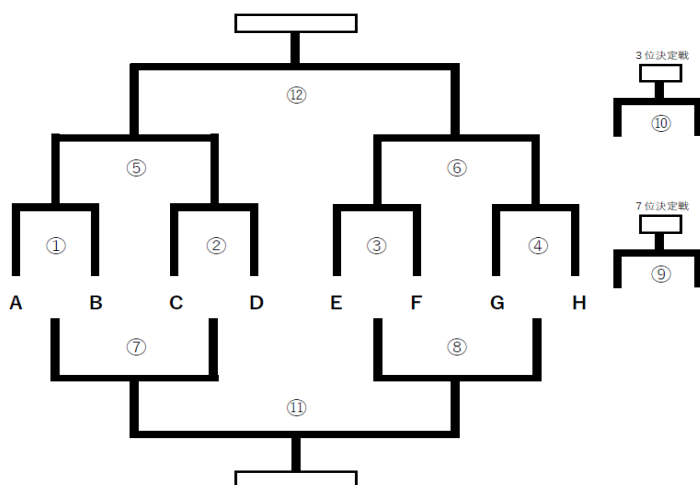
2. リーグ戦（7チーム）の場合 合計21試合

	Aチーム	Bチーム	Cチーム	Dチーム	Eチーム	Fチーム	Gチーム
Aチーム							
Bチーム							
Cチーム							
Dチーム							
Eチーム							
Fチーム							
Gチーム							

1チーム×5～12人の場合 35～84人実施可能

1試合×4分（1分－休憩・作戦2分－1分） 合計90分～120分

3. トーナメントの場合（8チーム）の場合 合計12試合



1チーム×5～12人の場合 40～96人実施可能

1試合×4分（1分－休憩・作戦2分－1分） 合計60分～90分